

会 報 No. 112

静岡県公立高等学校 P T A 連絡協議会

も く じ

会長あいさつ
総会・事業計画
研修会・役員名簿
全国高P連総会・評議員会
東海・全国高P連大会
体育保健課より
ホームページ開設
(財)安全振興会役員名簿

ホームページ : <http://www.hs-pta-shizuoka.net/>



静岡県公立高等学校 P T A 連絡協議会

会長 豊岡 武士

昨今の高校生を取り巻く情勢につきましては、景気回復により就職活動は明るくなってきましたが、情報化や国際化また、少子高齢化などの急速な進展に伴って様々に影響が及んでいると思います。こうした中でも、殆どの生徒は勉強や部活に一生懸命取り組み、楽しい高校生活を送りつつ自らの今後の人生を積極的に切り拓く努力をしていると見受けられます。保護者である会員の皆様にはこうした生徒を温かく見守りながら、また、時には思春期の真只中にある彼等や彼女達にハラハラしながらも夫々の健やかな成長と逞しい自立を願っていることと存じます。さらに、各校 P T A 活動にも積極的に参加され、同じ年頃の子供を持つ同志として協力しながら生徒達の学習環境の整備や健全育成などにご努力されているものと存じます。高 P 連におきましても、単位 P T A 及び地区 P T A のご協力をいただき、本県公立高等学校等に学ぶ生徒の健全育成などの事業活動を推進しております。この機会に皆様のご協力を改めて感謝を申し上げる次第であります。

さて、高 P 連の会長職を仰せつかっておりますと、充て職で様々な会の委員等に任命されます。その中の一つに静岡環境整備審議会というのがあります。ここでは現在、「静岡県青少年のための良好な環境整備に関する条例」の改定について、県知事から諮問されています。皆様もご承知のとおり、近年携帯電話やインターネットの急速な普及や深夜営業店の増加等から、その利便性など恩恵はあるものの有害サイトや誹謗中傷等の情報が氾濫し、青少年が犯罪に巻き込まれる事件の発生など青少年を取り巻く環境が益々悪化しており、さらに人間関係の希薄化や規範意識の低下が進むなど憂慮すべき事態となっております。このような状況から大人に一層の責任ある行動を求めるとともに、青少年に自覚を促し、より実効性のある青少年の健全育成を図るため条例改正の必要があるとされています。この八月二十日まで県民意見の募集もされましたが、今後この条例改正が進められますので、高 P 連においても逐次状況をご報告するとともに、高校生にとって有害な環境が改善されるよう単 P におきましても留意していただくことをお願いしたいと存じます。

さて一方、今年六月県教育委員会から社会情勢の急速な変化に合わせ見直しがされたことに伴う、「人づくり」二〇一〇プランの後期計画が公表されました。その学校教育の章の高等学校教育の部分を見ますと

- 一、基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実
- 二、自ら学び、自ら考え、課題解決に主体的に取り組む生徒の育成
- 三、社会の中で自己を見つめ、考え行動する「こころざし」の育成
- 四、教育内容の多様化と柔軟なシステム
- 五、心身共に健全で安全な生活を営む実践力の育成を進めることとされており、それぞれ二〇一〇年の達成目標が示されています。また、盲・聾・養護学校教育についても

- 一、ふれあいを広げ、社会性を育てる「共生・共育」の充実
- 二、一人一人の教育的ニーズに応じ、発達を促す教育の充実
- 三、様々な経験を通じ意欲を高める教育の推進
- 四、生命を大切にし、生きることの喜びを感じる教育の充実とされています。私たち P T A 活動の目標の一つに、生徒と共に保護者も学んでいくこともあると思いますが、この「人づくり」二〇一〇プランについても各校 P T A 活動の中で話題にさせていただきたく思います。

これからも、各校 P T A と高 P 連の連携により、二十一世紀の我が国を担う高校生が逞しく成長することを願って止みません。会員の皆様の高 P 連へのご理解とご協力を引き続きお願い申し上げます。ごあいさつといたします。

平成十八年度 県高P連総会

平成十八年度県高P連総会・研修会が六月二日(金)しずぎんホール・ユイフォニアで開かれ、各学校のPTA会長や校長等三九一人が参加した。

豊岡会長は挨拶のなかで、高校PTAの目的は三つあり、一つは生徒の学習環境の整備、二つ目は健全育成。

昨今、子どもたちが事件の被害者や加害者になり大変憂慮される。そのためにもPTA活動をしっかりとやらなければいけないと思う。

先般、中小企業の物づくりをやっている会社の社長さんとお話をする機会があり、そのお話によると、近頃入社してくる若者はちょっと叱るとすぐ辞めてしまう。「ワーカー」と「マネージメント」が出来る人間」と明確に分かれてしまっている。以前は、現場で二・三年働かせてこれは使える、という者は営業に回せば、マネージメントする仕事が出来た。今はハッキリ分かれてしまった。ワーカーの方を見るとまったく意欲がなくて、云われたことだけをやってる。あるとき、外国人を使つたところ、大変優秀なので一年も経たないうちに管理職にして、日本人のワーカーを使う立場になったが、三年間の研修が終わると自国へ帰ってしまう。すると、会社が回らなくなる。そんなワーカーに位置付けられる若者

達の将来を大変心配していた。

今、格差社会が問題になっているが、その社長は「こんな現状では、格差社会が生まれるのも仕方がない。」という厳しい指摘であった。

次世代を育む地域社会のあり方としては、簡単に言えば「いい子ども達を地域社会でどうやって育てるのか」ということで、昨今は社会全体の中で引きこもりの子ども達だけでなく、社会的に引きこもってしまうという人たちが多くなっているという指摘がある。

町内会の活動には全く出てこない。会社の中で、隣家の人にメールで伝言を伝える。子供会活動で役員を引き受けたがらない。などの人たちが多くなるとコミュニティが崩壊してしまう。コミュニティが崩壊すると子どもたちを地域で育てることが出来なくなる。大きな災害が起きたときには、皆



総会 豊岡会長あいさつ

で助け合つて地域を守っていくことが出来ないのではないかと指摘する人も多い。今、学校と家庭と地域で子どもたちを育てていくということになっている。学校が、開かれた学校になつたと云つても、地域社会がそれをサポート出来ないような現象が起きているのではないかと考えてしまう。子どもたちの安全を考えても、地域がしっかりと見守っていくことのできる社会にしていかなければならない。併せて、幼児教育・家庭教育が最も重要ではないかと思つている。子どもたちを健全育成していくことはPTA活動の大きな役割だと思ひます。

三つ目は、子どもたちと共に勉強し育てていくPTAでありたい。高P連事業のなかにも研修会があるので、積極的に参加して勉強していったきたい。昨年度の東海大会では、情報化社会の対応について研修したのですが、社会の変化が激しい、という時代を向かえ、親が体験したことのないことが、子どもたちに起きている状況では、共に勉強しながら、より良いPTA活動にしていかなければならないと思ひます。

また、安全振興会から突然死を防ぐために助成してもらつた、AED取扱いの研修会の各校開催を希望していた。

豊岡会長は日ごろのPTA活動への思いを話され、あいさつとされた。次に、PTA活動の充実・発展に貢

献された一五人の表彰が行われ、表彰者代表として瀧原晃理事(清水東高校)が謝辞を述べた。

引き続き、来賓の遠藤亮平教育長は祝辞の前に、教職員の不祥事を詫びると共に教育活動におけるPTAの重要性を強調され、保護者への共通理解を訴えた。

総会では、平成十七年度事業報告・決算報告、県連役員改選、平成十八年度事業計画・予算案が提案され満場一致で承認された。また、芦川清司高等学校安全振興会理事長から、安全振興会の現況・課題等が説明された。

今年度の研修会は「PTA活動の発表」で日ごろのPTA活動の成果を、東・中・西部から一校ずつ発表して、好評であった。

祝 辞

静岡県教育委員会教育長

遠藤 亮平

祝辞申し上げる前にお詫びをしなければならぬと思ひます。このところ教職員が不祥事を起こしたことで、学校に対する不信感を募らせてしまっていることは、私も教育委員会をはじめ事務局一同が指導不足だったと思ひます。もう一度原点に戻つて、これからの教育を考える必要があると反省しています。ごく一部の教職員が起こした事件ではありますが、ご心配やらご



遠藤教育長の祝辞

迷惑をお掛けしてしまいお詫びいたします。一部の教職員が起こしたことに よって、教育界が被った打撃というものは甚大なものがあります。また、多くの先生方は、一生懸命やっている、PTAの皆様方にはご理解いただいていると思っております。これからも、一層、学校教育を支えていっていただければ有難いと思います。教育委員会もPTAの人達といろいろな情報交換をしたり、ご指導いただいたりする場を高P連事務局の方と相談しながら、設定して行きたいと思えます。意見交換をしていく中で、信頼に応えられる教育界を築き上げていくよう全員で進んで行きたいと思えます。

さて、日ごろから、学校運営に関してPTAの皆様には物心両面でご援助 いただいて有難うございます。教育委員 会に十分な予算があれば、PTAの

皆様にご負担をかけることなく学校教育を進めることが出来るのですが、今の財政状況では難しく、いろいろな面で、物的・金銭的にご支援を頂戴しておりますことに感謝申し上げます。

学校教育は先生だけで成立たない部分があるので、どうしても、金銭的な面でもご支援をいただかなければならないところが出てまいります。心苦しい面もあります。本来ならば全て公的に負担をしなければならぬのですが、保護者の方々に「ご負担をお掛けして おりますして有難く思っております。

学校の教員達は授業だけでなく、部活動や特別教育活動にそれこそ休むことなく、懸命になって生徒の育成のために尽力していることはご承知のとおりだと思えます。その中で、保護者の暖かい一言で教員達はエネルギーをいただけるものだと思っております。

これから、学校・家庭・地域が連携して学校教育を盛り上げていく意味では、PTAの方々の存在感がその要となつていっていると思えます。その一つのキーワードに協働というものがあります。教員だけではやりきれない部分があります。例えば、就職活動の模擬面接や先輩に体験的な話を聞く機会などに、PTAの皆様も参加して、講話などご指導をいただいているところもあると思えます。どうか、大いに学校に入ってきていただいて、社会の風を生徒達に浴びせて、立派な人間に育つていくように、学校と協力してやっ

ていただければと思っておりますので、いろいろな意味でのご支援をよろしくお願い申し上げます。

事業計画

「目的」

次代を担う青少年の心身共に健やかな成長と高等学校教育の更なる充実と発展を願っている私たちPTAは、生涯学習の視点に立脚して、自らが学び、自らの資質の向上に努めるとともに、青少年を取り巻く社会環境の整備と浄化を積極的に推進する。

また、社会教育団体として家庭・学校・地域社会との連携を図り、家庭や地域社会の教育力の充実及び向上等に寄与する。そのため、次の重点目標を定め、以下の事業を企画し積極的に推進する。

●《重点目標》

- 1 自主的、主体的なPTA活動を推進し、充実した魅力ある学校づくりを支援する。
- 2 学校及びPTA相互の連携・公立私立を問わず幼・小・中・高校）を密にし、地域ぐるみで青少年の健全育成を図る。
- 3 教育環境の整備及び充実を図る。
- 4 学校や関係機関等と連携し、進路指導の充実に努める。
- 5 学校や関係機関等と連携し、防犯

活動や交通安全教育・交通安全運動を一層推進する。

●《事業》

1 PTA研修会の開催

(目的) 青少年の教育には、保護者自身の指導力を高め、家庭教育の充実を図るとともに、学校や地域社会との連携を深め、教育の成果を一層確かなものにしなればならない。

そのため、次の研修会を開催する。

(1) 指導者研修会(総会時)

期 日 平成十八年六月二日(金)
会 場 しずぎんホール
参加者 単位PTA指導者
内 容 1 総 会
全体会・表彰

2 研修会

「PTA活動の発表」

(2) 地区指導者研修会

期 日 平成十八年六月～十月
会 場 県内十一地区
参加者 (盲・聾・養護学校を含む) 単位PTA指導者二十人以上
内 容 青少年健全育成・家庭教育の在り方・地域活動の進め方等地区の課題解決のためのPTA研修

(3) 特別委員会

期 日 平成十八年九月四日(月)
 会 場 静岡県立浜松大平台高等学校
 参加者 本会役員等

内 容 県の再編整備により、平成十八年度開校した新設校の設置経過・教育内容・施設設備等を直接訪問して研修する。

2 PTAの指導者研修(県外)

(目 的) 高校生の健全育成を目指しつつ、社会教育団体としてのPTAのあり方を追求するために、広い視野とより高い識見が必要である。その目的達成のため県外の研修に派遣する。

(1) 東海地区高等学校PTA連合会総会・研究協議会(愛知県)

期 日 平成十八年六月十六日(金)
 会 場 名古屋市公会堂大ホール
 参加者 東海地区高等学校PTA連合会会員及び希望者等
 約一、八〇〇人
 (静岡県三〇〇人)

内 容

総 会(事業報告・事業計画・役員改選等)

大 会 講演

・演題「健やかな子どもの育成のため、今、何が必要か？」
 講師 木原雅子 氏

京都大学大学院医学研究科
 社会免疫学分野 助教
 研究協議

「進路指導とPTA」

愛知県立旭丘高等学校PTA
 「高校教育とPTA」
 三重県立津高等学校PTA

(2) 全国高等学校PTA連合会大会

(秋田大会)

期 日 平成十八年八月二十三日(水)、
 二十四日(木)、二十五日(金)
 会 場 秋田市を中心に分散型
 参加者 全国高等学校PTA会員及び希望者等(約一〇、〇〇〇人)

内 容 開会式(全体会・表彰式等)

大 会 テーマ

「夢・可能性・次代を拓き共に生きる力」

記念講演

・演題『一億層中流時代の後にくるもの
 これからの社会と人間の
 あり方について』

講師 学習院大学教授前東京大学総長

佐々木 毅 氏

3 青少年健全育成活動事業

(目 的) 会員自らの実践活動を通して、地域の教育環境の浄化や明るい家庭の建設及び生徒の非行防止に努め、生徒の善行賞揚等によって健全育成を図る。

(1) 高校生善行賞

表彰状授与(記念品を添える)
 表彰授与式は各校で行なう。

4 賠償責任保障制度への加入

(目 的) 高校生の一人ひとりを賠償事故から守り、健全な育成を支援する。

設立団体 (社)全高P連

補償期間 平成十八年四月一日

〜平成十九年三月三十一日

掛け金 一人二〇〇円

(財)静岡県高等学校安全振興会から助成

加 入 学校単位

5 会報の発行

(目 的) 会員の情報交換などPTAの機関紙として、会員相互の連携を図り共通理解を深めて、協力体制を構築する。

発 行 年間二回発行

内 容 本会活動の状況や今日的な教育問題など。

6 関連団体との連絡提携

- (1) 静岡県PTA連絡協議会
 - (2) 静岡県公立幼稚園PTA連絡協議会
 - (3) 静岡県私立学父母の会
 - (4) 静岡県青少年育成会議
 - (5) 財団法人静岡県高等学校安全振興会
 - (6) 「社会を明るくする運動」協議会
- その他、関係諸団体との連絡・提携を深め、本会の目的達成に努める。

平成十八年度
 研 修 会

「PTA活動の発表」

総会のあとの研修会は、小野副会長の進行で、各地区のPTA活動の状況が発表された。

「家庭・学校・社会(地域)の共同作業によるインターンシップの実施」

富士宮西高等学校PTA

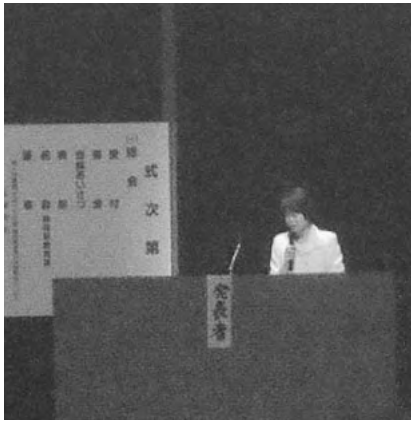
十七年度会長 佐藤 一希

十七年度副会長 渡辺 隆司

生徒のドリームプラン実現の一環として、PTA(家庭)・学校・社会(企業・福祉施設等)の共同で、夏休みにインターンシップを、一年生を対象として実施した。学校とPTAのコミュニケーションの良いことや、PTA理事の任期が三年で、理事同士の意思疎通も良く、学校だけでなくPTAも参画することで一層の成果を挙げた。



富士宮西高校PTAの発表



庵原高校 P T A の発表

「特色ある学校教育の支援」
 ～国際理解教育を推進する学校と P T A ～

庵原高校 P T A
 後援会長 三浦喜久江
 国際交流支援委員会 石川 弥生
 前委員長

P T A の専門委員会に国際交流支援委員会があり、当初平成七年にスタートした。基金を集める「国際交流基金」やホストファミリーが留学生との日常を紹介するパネル展示開催、委員会活動を紹介します。冊子の配布。また、学校の国際交流活動の支援など様々な活動を行っている。

多彩な活動により、庵原高校の国際理解教育が推進されていることが素晴らしい。



浜松東高校 P T A の発表

「浜東レポート」

浜松東高等学校 P T A
 会長 鈴木 政彦
 副会長 西宮 利夫

初めにプロジェクターを使い、生徒の学校生活・学校行事等を丹念に紹介した。

P T A 活動としては、自転車通学者が九四%もあることから、交通安全指導員を置いて交通整理を毎日行っている。P T A 役員も街頭での交通指導や声掛けなどの活動を行っている。事故件数も減少傾向である。

文化祭ではバザーや模擬店を出し学校との一体感を深めている。P T A 総会時の授業参観も行っている。



| 顧問 | 名誉顧問 | 名誉会長 | 監事 | 理事 | 常務理事 | 校長理事 | 副会長 | 会長 | 役員 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|------|------|------|------|---------|------|------|------|---------|---------|------|---------|----------|---------|---------|------|----------|--------|----------|-------|------|------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 高岡美弥子 | 栗田正己 | 鈴木敏弘 | 芦川清司 | 西原茂樹 | 岩本伸一 | 大長晶代 | 杉山 貢 | 赤松三郎 | 長野哲久 | 鈴木政彦 | 中谷克章 | 弓桁義美 | 蜜岡紀子 | 今駒敏雄 | 鈴木幸雄 | 栗田孝広 | 藤田和寿 | 太田光彦 | 門田潤一朗 | 曾根正人 | 加藤忠彦 | 大石博一 | 小沢俊夫 | 貝増英樹 | 佐々木和夫 | 山田敏博 | 上田 弘 | 鈴木喜久則 | 藤原有恒 | 小林宗隆 | 石田邦明 | 大石 收 | 岩崎 功 | 竹内精一 | 曾根正人 | 小野 徹 | 豊岡武士 | 氏 名 |
| 島田商業 | 三島北 | 浜松北 | 静岡農業 | 榛原 | 浜松工業 | 静岡工業 | 小 山 | 浜松北 | 浜松東 | 天竜林 | 袋 井 | 横須賀 | 掛川西 | 焼津中央 | 金 谷 | 大井川 | 静岡農業 | 静岡市立商業 | 清水南 | 富岳館 | 富士東 | 富津工業 | 沼津城北 | 田方農業 | 三島北 | 三島山 | 稲 取 | 事務局 | 浜松北 | 清水東 | 静岡岡 | 清水南 | 三島北 | 三島山 | 学校名 | | | |
| 高 P 連役員会 | | | 浜松地区 | 静岡地区 | 沼津・駿東地区 | 西遠地区 | 浜松地区 | 磐田地区 | 小笠・周智地区 | 志太・榛原地区 | 静岡地区 | 清水・庵原地区 | 富士・富士宮地区 | 沼津・駿東地区 | 三島・田方地区 | 賀茂地区 | 高 P 連役員会 | 校長協会 | 高 P 連役員会 | 推薦地区等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

印は地区世話人理事を示す

表紙の題字「会報」は元県立沼津西高校教諭
 成田真洞氏（県高等学校書道教育研究会前理
 事長）によるもの

平成十八年度 静岡県公立高等学校
 P T A 連絡協議会役員名簿

全国高P連総会・評議員会の開催

六月二十四日(土)東京ガーデンパレスで開催された。会には本部役員と各県高P連会長・事務局長ら一三〇人が出席した。

議案は、事業・決算報告が承認された。

また、役員改選が行われ、平成十八年度の役員は次のとおりとなった。

- 会長 藤井久丈(富山県)
 - 副会長 高橋正夫(大分県)
 - 副会長 高間専逸(北海道)
 - 専務理事 三角 治(和歌山県)
 - 常務理事 阿部晃造(福島県)
- なお、本県の豊岡会長は、調査広報委員に就任した。

全国高P連 秋田大会

八月二十三日(水)～二十五日(金)、秋田県秋田市立体育館、秋田県立武道館を会場に開催された。「夢・可能性・次代を拓き共に生きる力」をメイン研究テーマに全国から約一万人(本県参加者三九三人)が参加した。

藤井久丈全国高P連会長は、開会式あいさつで「今日、大多数の子どもたちは明るく健やかな家庭生活を送っているが、一部では親子関係に係わる悲しい事件が起こっている。学校や行政、あるいは社会からの家庭教育への不可侵は当然だが、それだけに保護者は親と

して、大人としての自覚を十二分に持ち、わが子の教育にあたること、今さらながら求められている。」と訴えた。

来賓の小坂憲次文科大臣代理の有村治子政務官は、「資源の乏しい我が国は、人材こそ宝で、教育はこの国の将来を左右する最重要課題である。」その教育の柱である教育基本法案の国会審議状況等が話された

開会式に続き、優良PTAの表彰。また、秋田県高校生等によるアトラクション・記念講演・分科会等が行われ盛会であった。



第56回全国高P連大会(秋田大会)開会式

全国高P連会長表彰

(個人)

竹内 精一(浜松北高校)

単Pの会長として、校内の教育活動の活性化に積極的にリーダーとして力を発揮した。

生徒の校外活動健全化へ、補導を通して親身に活動した。

また、県高P連副会長としても各会議の運営に深くかわり、会のスムーズな運営に努めた。

正野 智男(静岡高校)

単P会長として、土曜オーブンスクールの本格実施や図書館ボランティア活動の実施に寄与した。

また、静岡地区の指導者研修会の開催に尽力し、PTA活動の発展に貢献した。

(団体表彰)

県立島田商業高等学校PTA

PTAとして、学校の運営を支援すると共に、地域の高校PTAと連携してPTA諸活動を積極的に推進した。

PTAの六つの委員会に活性化進路指導委員会では夏季休業中に生徒の面接指導を実施一〇〇%就職希望の実現に貢献。「親子の絆を高める」の研修テーマを設定してPTA総会の活発化、授業参観の推進、部活動での親子の交流会を実施した。これらの成果を地区研修会や県総会時に発表してPTA活動の意義を啓蒙した。

県立土肥高等学校PTA

会員数約一五〇人の小規模校で会員全員がPTA活動に関わること

で、学校の活動を支え、会員も共に成長している。活動は「学校行事への参加」「健全育成活動」「研修」の三本柱。具体的には「駿河湾の水泳訓練での遠泳監視や文化祭の模擬店出店の行事参加」「月一回の巡視活動や夏の祭典指導等の健全育成活動」「生徒の薬学講座を一緒に聞くこと、学校保健委員会に参加すること、学校の研修参加」「土肥海岸清掃(生徒会主催)の美化活動に参加」因みに、海岸清掃活動は県知事褒章(平成十六年度)をつけている。

(役員等表彰)

豊岡 武士(葦山高校)

平成十三年度から県高P連副会長を三年間務めたあと、平成十六年度から会長に就任し、本会運営の要として諸活動にリーダーシップを発揮した。

また、平成十七年度には東海地区高P連の会長として東海大会・研修会を成功させた。併せて、全高P連の常務理事としても参画し、全国の活動計画等の取りまとめや、実践活動に手腕を発揮した。

文部科学大臣表彰

(団体表彰)

静岡県立静岡西高等学校

PTA役員と教職員の密接な連携がとれるなか、活動が行われている。主な活動としては、一年生の職業講話、学年懇話会、交通安全教室など積極的な活動を展開している。

また、平成十七年度には、全国高P連長野大会において第二分科会(進路指導とPTA)で岡村文司会長が「この活動の成果を発表し好評を博した。」

大会宣言文

第56回社団法人全国高等学校PTA連合会大会秋田大会は「夢・可能性・次代を拓き共に生きる力」をメインテーマに、全国各地から約一万名の会員がみちのく「秋田」の地に集い、盛大に開催された。

今日、青少年を取り巻く社会環境の変化は著しいものがあり、それに伴い人々の価値観は多様化している。また、科学の急速な変化に伴い生活環境の便利さの中で、ともすれば自己を見失い、心身の健康を欠き、自己を傷つけ、他人を攻撃するという事件が後を絶たない時代となっている。教育もこれまでにない重い課題を抱えることになってきた。このような状況下、私たちは青少年健全育成のために真剣に取り組んでいかなければならない。

本大会において、当面する諸問題を解決するために、様々な視点から真剣な研究と討議を重ね、学校教育の充実はもとより、家庭・地域社会の持つ教育力の回復の必要性を痛感した。さらには自己を見つめさせ、心豊かで逞しく、すすんで社会に貢献する青少年を育成することが、私たちの責務であることをあらためて確認した。

ここに大会の成果を踏まえ、我が国の将来を託す青少年が大地にしっかり根を張り、「逞しく伸びゆく わが杉」のごとく大きく成長していくことを願い、さらにはPTA活動をより一層活性化し、充実発展させていくことを誓って、次に掲げる事項の実現を目指す。

記

1. 人格形成は家庭と地域社会が基礎であることを認識し、親子で人間としての生き方を考える。未来を担う青少年の個性・適性等を引き出し、将来への夢・希望・目標に向けて努力する手だてを示していく中で、特に高校生を取り巻く家庭の役割を重視した家庭・地域社会の教育力の向上を目指す。
1. 完全学校週五日制の実施以来、「ゆとり」の中に「生きる力」を育む教育が推進されてきた。それなりの成果はみられるものの、学力の低下や学習意欲の希薄さが指摘されてきている。基礎学力の向上にむけた取り組みと、「意欲」「やる気」を醸成させる家庭環境作りを目指す。
1. 今後IT（情報技術）産業の発展によって、青少年を取り巻く生活環境がどのように変化し、影響が及ぼされてくるか計り知れない。その中で高校生が将来の生き方・あり方を考えてしっかりとした勤労観・職業観を身に付け、自らの能力・適性を見極め、進路を選択していけるよう支援する。
1. 青少年の成長にとっては社会の環境とかかわりは大きく、また時代の波に影響されることが少なくない。その中において命の尊さを自覚し、常に主体的に物事を判断し、自己を見失うことなく行動できる人間の育成、また他者を思いやる「豊かな心」の育成に努める。

第56回全国高等学校PTA連合会大会秋田大会において宣言する。

平成18年8月25日

社団法人全国高等学校PTA連合会大会秋田大会

東海地区高P連大会開催

六月十六日（金）名古屋市公会堂で東海地区高P連による総会及び大会が開催され、参加者一、六三七人（本県参加者三三〇人）を得て、盛会に開催された。

総会では、事業報告・決算報告、役員改選並びに十八年度事業計画・予算案審議が行われ承認された。

また、本年度東海地区高P連会長には、愛知県会長の山田一氏が、副会長には本県会長の豊岡武士氏、岐阜県会長の澤田栄氏、三重県会長の福山秀樹氏が選出された。

他に本県からは、理事に

竹内 精一（県高P連副会長）

小野 徹（県高P連副会長）

岩崎 功（県高校長協会会長）

代議員に

大石 博一（県理事・富士東高校PTA会長）

藤田 和寿（県理事・大井川高校PTA会長）

今駒 敏雄（県理事・掛川西高校PTA会長）

の六氏が選出された。

大会では、はじめに「健やかな子ども育成のために、今、何が必要か」子どもを取り巻く人間的つながりの回復を目指して」と題して、京都大学大学院医学研究科（社会免疫分野）助教授木原雅子氏の講演が行われ、前年度、全国高P連が実施した「高校生の問題行動/意識」「高校生の気持ち」「学校の状況」「家庭の状況と親子関係」

の調査結果をもとに話しをされた。調査内容を抜粋すると、「高校生が保護者に希望すること」は、子どもの接し方として「信じて見守って欲しい/ちゃんと話を聞いて欲しい/親だからって押し付けたくないで欲しい」家庭の状況（家庭の雰囲気・両親の関係への希望）代表例として「借金はやめてください/夫婦仲良くしてほしい/暴力を振るわないで。家事をしてほしい等々。親への感謝いたわりの気持ち/生んでくれてありがとう/いつつもご苦労様/今のままでいい、すぐく支えてもらっているし、これからますます支えてほしい等々。

最後に、都市・地方の区別なく、子どもたちはとても危ない状況である。このような状況を作り出しているのは、われわれ大人社会である。そのような子どもたちに適切な教育や支援を提供するのも大人の責任である。

その取組みには、科学的な裏づけと『大人の本気』のかわりが必要である。各地域/各学校の子どもの状況にあわせた取組みが、子どもたちに一番身近な保護者を中心として早急に開始されることを期待する。と提言していた。

研究協議では、進路指導とPTAのテーマでは、「学習活動と特別活動の徹底した両立を目指して」という標題で愛知県立旭丘高等学校の水野聡PTA会長が発表した。高校教育とPTAでは、「PTAと学校の連携」子どもを理解し、生徒を支援するために、三重県立津高等学校の岡林靖之PTA前会長が発表した。

講演・研究協議とも盛会のうちに閉幕した。

なお、来年度は岐阜県で東海地区高P連大会が開かれる予定。

体育保健課より

交通安全教育実践地域事業について

平成十六・十七年度、静岡県立静岡西高等学校は(財)日本交通安全教育普及協会より委嘱を受け、二年間にわたりサイクルリーダー(生徒会交通委員)を中心に、地域、PTA、関係諸機関の連携による交通安全実践研究に取り組みましたので、紹介します。

一、研究主題

自転車の交通安全マナーの意識高揚と車社会との共存を目指す。

二、研究計画の概要

(一) 広報等の情報提供を密にして、生徒にわかりやすい交通安全指導の継続及び強化をし、安全走行のためのマナーを習慣化させる。

ア 職員による毎日の登下校指導と雨天登校時の傘差し運転撲滅指導

イ 職員、PTA、生徒会交通委員会(サイクルリーダー)合同による登校時の定期的な交通街頭指導

ウ 交通安全ポスター作成・展示
エ ひやりマップによる危険箇所の掲示

オ 交通安全意識アンケート

カ 自転車登録及び専門家による自転車安全点検

キ ステップアップ交通安全教材

(県教委体育保健課)の活用

(一) 交通安全教育のための講習会や話し合いを行い、危険予知能力の向上と安全に行動できる態度と能力を養つ。

ア 交通安全講話

イ 交通安全教室

(三) 生徒会交通委員会が中心となつてマナーアップキャンペーンを実践し生徒の安全意識の啓発と高揚を図る。

ア サイクルリーダー任命

イ 生徒会交通委員会、職員、PTA合同による登校時の定期的な交通街頭指導

ウ 交通安全座談会

エ 交通安全ポスター作成・展示

オ 交通安全教室

カ 交通安全意識アンケート
キ ステップアップ交通安全教材の活用

ク ひやりマップによる危険箇所の掲示

(四) 地域・PTA・関係機関と連携して、総合的な交通環境整備の方策を研究・検討し、あわせて安全教育の地域連携による開かれた学校づくりの推進に資する。

ア 交通安全座談会(文化祭)

イ 生徒会交通委員会、職員、PTA合同による登校時の定期的な交通街頭指導

ウ 地域連携の交通安全教室

エ 自転車登録及び専門家による自転車点検

三、研究成果と今後の課題

交通安全教育はサイクルリーダーの活動をはじめ、職員の毎日の登下校指導、PTAの定期登校街頭指導や自転車点検、交通安全座談会、交通安全教室等への参加・協力、その他諸機関の協力等大きな支援が不可欠であることを受けて実感できた。本校における今後の安全教育の充実に向けて、開かれた学校づくりの一環として、地域、PTA、関係諸機関との連携と協力の中で取り組んだ本事業での経験は、大変貴重な成果を生んだ。道路交通の危険とは、一瞬にして生命を失う恐ろしさであり、事故が起きてからではとりかえしがつかないという緊張感を持った指導が必要である。生徒たち一人一人が、自分も交通社会の一員としての責任を負っているという自覚をもち、自分勝手に慎み、心にゆとりを持ち、「思いやり」をもって交通安全を実践できるように、一層安全教育の徹底を図っていくべきであると考えます。



ファイトのはじめは朝ごはん

子どもたちを取り巻く社会環境は、急激な速さで変化しています。一人ひとりの生活スタイルの多様化が進み、外食や加工食品の利用者の増加が指摘されています。

子どもたちの食生活においても、偏った栄養摂取や朝食欠食などの食生活の乱れがみられ、肥満傾向の増加をはじめとする生活習慣病の低年齢化など、食に関する様々な課題が指摘されています。

このような中、県教育委員会では、すべての子どもたちが朝食を摂取するなど、望ましい食習慣を身につけることができるよう、子どもたちの食習慣の改善を図る事業を実施しています。

平成十四年度から開催している「朝食クイックメニューコンクール」では、これまでに、高校生の応募メニューが食堂のメニューとして採用されたことがありました。

高校生年代の朝食欠食や食生活の乱れは、大人になっても継続すると言われていています。

- 朝食をとることで、
- 体のリズムを整えることができます。
- 脳にエネルギーを補給できます。
- やる気と集中力が高まります。

また、朝食を摂る習慣が、望ましい食習慣や生活習慣の形成にも重要な役割を担っています。

